

第6回

平戸市総合戦略策定委員会 会議録

と き：平成28年2月24日（水）13：28～15：00

ところ：平戸市役所3階大会議室

○日時

平成 28 年 2 月 24 日（木）13:28～15:00

○場所

平戸市役所 3 階大会議室

○出席委員（氏名 50 音順、敬称略）

赤木、荒木、石川、田中、田淵、寺田（勝）、寺田（孝）、富崎、西原、古川、松尾、松山、
行成

○欠席委員（氏名 50 音順、敬称略）

竹田、豊増

○次第

1. 開会
2. 報告事項
 - ①会議録の確認について
3. 議事
 - ①平戸市総合戦略案について
 - ②その他
4. 閉会

○会議資料

- ① 平戸市総合戦略案
- ② 平戸市総合戦略案【見え消し版】
- ③ 「基本目標 2 産業の振興」と「エ」産業の育成と支援【見え消し版】
- ④ 「平戸市人口ビジョン(案)」・「平戸市総合戦略(案)」に関するご意見と市の考え方

(13:28 開会)

◎事務局

それでは、定刻前ではございますが、皆様お揃いでございますので、ただいまから第6回平戸市総合戦略策定委員会を開催させていただきます。

本日の委員会は、前回第5回策定委員会におきましてご審議いただきました、皆様方からいただきましたご意見、そして市議会への説明を12月21に行い、出されました意見を踏まえまして、内容を精査、修正しておりますので、その内容につきましてご説明させていただきたいと考えております。

また、本日のご審議をもちまして、本年度最後の策定委員会と考えておりますので、よろしくお願いたします。

本日は竹田委員、豊増委員より欠席の申し出がございましたのでご報告させていただきます。

それでは、報告事項に入らせていただきたいと思います。委員会の議長は、平戸市総合戦略策定委員会設置要綱第6条の規定によりまして、会長が行うこととなっておりますので、石川会長、よろしくお願いたします。

■会長

皆さんこんにちは。今日が策定委員会の最後ということで、最終的に漏れのないようにこれまでの案をチェックしていきたいというふうに思っております。私の大学の方は明日が前期入試ということで、今日はキャンパスの方が静まり返っておりました。受験生が少し来ていましたけれども、おそらく平戸からもたくさんの受験生が来てもらえるんじゃないかと思っておりますし、また長距離通学にはなるんですけども、一応このあたりまで通学可能圏内ではあるわけです。地元の大学ということで、これからもたくさんの受験生に来ていただければというふうに思っております。ちょっと受験科目とか厳しくしたので、受験生が減るかなというふうな予測を立てていたら、今年度は新学部が新しくできるということで、数多くの受験生が集まったようですけれども、大学の方もこれから引き続きよろしくお願いたします。

また、策定委員会の方、日本全国、今、人口減少ということで、厳しい地域の課題を抱えているわけですが、そうした中で総合的に戦略を立てていくということは非常に大事なことでありますけれども、今日のこの委員会でそうした点、また最終的に作っていききたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

では、次第に基づきまして、まず報告事項の会議録の確認についてということで、事務局より説明をお願いいたします。

◎事務局

私の方から説明させていただきます。

まず資料の確認ですが、2月17日にお送りしておりますけれども、前回の策定委員会の会議録、あと資料1としてインデックスをつけておりますが、平戸市の総合戦略の案、資料2として同じく戦略の案の見え消し版です。皆様お持ちでしょうか。

また本日、会の次第と資料の2-1として産業の振興と、産業の育成と支援の見え消しの1枚も

の。そしてパブリックコメントを行って出された意見と市の考え方の1枚もの、裏表になりますけれども、お配りしております。よろしくお願いたします。

会議録につきましては、今までと同様、基本的に要点筆記で公開するということとしております。これに基づいて作成しているところでございます。前回までの会議録とか会議でもお配りしました資料等につきましては、その都度市役所のホームページに掲載をしております。前回12月15日の会議録につきましては、不明な点とか修正等があれば、今週中を目処に事務局の方まで連絡をしていただければと思います。連絡を受けまして修正をして公開というふうに手続きをしていきたいと思っております。以上でございます。

■会長

一応会議録の方はそうした形になっているということでよろしいですね。

では、議事の方に入らせていただきたいと思います。まず1つ目の議事、平戸市総合戦略案についてということで、まず説明の方からお願いします。

◎事務局

前回の策定委員会後の12月21日、月曜日でございますが、市議会に対しまして平戸市人口ビジョン案、及び平戸市総合戦略案の説明を行いました。その後、1月8日から1月29日まで、市民の皆様に対しましてパブリックコメントを実施したところであります。パブリックコメントの詳細につきましては、皆様方にお渡ししておりますけれども、パブコメ実施の結果ですね、4名の方から4件の意見が寄せられたということでございます。内容等につきましては、後ほどご説明をさせていただきます。また、前回策定委員会でも委員の皆様方からのご意見に対する市の考え方、対応等につきましても1月8日に送付致しておりますので、ご確認をいただいているかと思っています。

それでは、前回の策定委員会からの内容修正、変更箇所につきましてご説明させていただきますと思います。

その前に、本会のアドバイザーでございます樋渡啓祐様におかれましては、昨年末に資料をメールにてお送りさせていただいております。その後、黒田市長とやり取りをされておまして、市長にお聞きしたところ、特段のご指摘はなかったということで聞き及んでいるところでございます。

それでは、資料に基づきまして説明をさせていただきます。

【①平戸市総合戦略案について】の説明

■会長

今日の審議はこの部分がメインであると思っておりますけれども、また皆さんからいろいろご意見をいただきたいと思います。この総合戦略案が結構ページを取るのです、前の方からご質問がある方に伺いたいと思います。また後で、途中で思い出したりしたら、前の方へ戻ったりしたいと思います。まず7ページのところまで、第1章、基本的な考え方というところですけども、こ

の7ページのところまでで何か、意見とかご質問はございませんでしょうか。

□委員

5ページのところですが、このあとの15ページとも関わってくるんですが、5ページのところで、基本目標の農林業就業者数で、これは林業を取ったというお話をされていましたが、その林業を外された理由というのは何かあるでしょうか。

◎事務局

これがですね、担当課とも話をしたんですけれども、確かに平戸市内で林業の従事者というのが確かに少ない。森林組合はございますけれども、パーセンテージにしたところ少ない。あと比較において中身が農業と漁業、いろんな施策の充実を図っておりますけれども、林業は少ない、事業的には少のうございます。そこらへんに特化して表現する方が良いという判断から、林業を外したところでございます。

□委員

そうすると、15ページのところでは農林業の振興と基本目標がそのままになっているんですけれども、それは残しておられますか。農林業の振興と16ページの案のところにも農林業の振興のままになっていますけれども。

◎事務局

表題の項目のことですね、ここでは個別に入ってきますので、ここでは拾っていきますからあげてはおります。

□委員

その場合、主な事業が対応するもので林業が見当たらないですが。

◎事務局

林業に関しますと、木質バイオマスが絡むようにはなってまいります。

■会長

見方としては、ここの農林業の項目の中で、目標というか、数値目標からは林業が消えたという形になっているんですけれども、一応事業の中には含まれてはいるということだと思います。確かに一次産業といってもいろいろあるわけですが、対馬あたりだったらかなり林業のウエイトが高かったかなと思うんですが、そのへんは地域によって違いがあって、平戸の場合は農業、漁業というところがメインなのかなという気がいたしました。見え消しの林業の件がちよっと見にくかったので、私も最初は消えているのかなと思ったんですが。

□委員

林業をもうちょっと触れてあげるといいんじゃないかなという気がします。言葉の中に林業をあまりメインの事業、あまりぱっとした事業がないわけですし、林業をどうしたいのかというのを入れてあげるといいのかなという気もしますけれども、ちょっと完成版に近いかもしれませんけれども。

■会長

そうですね、基本目標は15ページ以降になりますけれども、どこかアの項目のところは農林業の振興ということなんで、ちょっと短くても入ったほうがいいというご意見ですかね。

□委員

それに関してなんですけれども、今、5ページのところの2,256名と、林業を外されて1,900名という事であれば、やっぱり350何名は携わっているわけですから、そこがどうなのかなという印象を受けました。

◎事務局

消した方の基準値の方ですけれども、これが平成22年度の数字だったんですね。この1,900人というのが最新の速報値、農業センサスですね、ですから新しい数字で、当然22年と比べますと数字は減るといところが正直なところです。

■会長

確か産業大分類でも、最近林業はちょっと手薄になっていたと思うんですね。農林業の中で林業というのも小項目になっていて、確かに国全体では従事者が減ってきたという形かと思えます。

特に5ページ、6ページあたりの基本目標というのは、第2章以降にも繋がっているところなので、またそこでも議論できるかと思うんですけれども、7ページまでのところで他にご意見ないでしょうか。もしあれば、また後からでも結構ですので、思いつかれたら言っていただくということで、次に8ページから基本目標の1のあたりぐらいまで、これは促進というところと14ページまでありましたけれども、8ページから14ページのところでご意見、ご質問等あればお願いします。

ここからは、実際に主な事業とかも具体的に出てきております。別な項目に移って統合されたりしたものとか、修正されたりしたもの、また削除、追加というものも説明があったかと思えますけれども、ご質問、ご意見あればお願いします。

では、また思い出されたら後で何うということで、基本目標の2、産業の振興というところが15ページから23ページまでございますが、この産業の振興というところでご意見があればお願いします。産業のところも、先ほどの雇用のところも結構リンクしていたところがあるかなと思いますけれども、こちらは個々の産業、観光も出てきたかと思えますけれども、ご意見、ご質問あればお願いします。

□委員

20 ページの、これは文字の使い方なのですが、観光の振興のウの一番下の丸のところのアンダーラインが引いてあるところですね、本市との関わりが深くなった者にしてあるんですけども、この者というのは、この前に寄付者とか移住者とか言葉があるならばいいんですけども、単独に者という使い方はどうかなと思いました。

□委員

私も全く同じ意見で、多分行政的には者という表現だと思いますけれども、民間とかお客様に対して、寄付とかいただいている立場でありながら、あなたは者であるというのは余りにも失礼かなと思います。このことも深くなった方に対してとかいうのが必要なかなと。

■会長

そうですね、方とか人々とか、いろいろあるのかもしれませんが、何かいいご提案はありませんか。

◎事務局

「方々」で訂正させていただいてよろしいでしょうか。

■会長

もちろん、行政資料としてどうなのかというところも踏まえて判断していただければと思いますけれども、他にございませんでしょうか。基本目標、産業の振興のところ。

□委員

22 ページですけども、丸の3つ目の小規模商工業者の振興のため、消費者ニーズにあった販売・流通スタイルの構築を図るとかあるんですけども、小規模に特化していると思うんですけども、小規模、中規模、小事業者、商工業者というような扱いよりも、ちょっと変えるとしたら、小規模・中規模事業者の方がいいんじゃないのかなと思うんですけども、その中に事業者となれば商工も入ってくるんですか。

■会長

事業者の方が定義的には広いですね。

□委員

それと、新規平戸産品取扱店舗数の27年度の基準値が3件とあるんですけども、ここはどこでしょうか。具体的にこういう店だというようなイメージがあれば、今後、これを見た場合に展開もしやすいんじゃないかと思うんですけども、実績があればどういう、店の名前を言えなければ、どういう販売をしているとかいうような、この3件の内容について聞きたいと思います。どういう業種とか、事業をされているかという。

■会長

お答えいただけますでしょうか。

◎事務局

ここの商工業者という言葉の代わりに中規模事業者という。

□委員

1つ中規模も入れやすいですね。

◎事務局

小規模・中規模。

■会長

中小規模というふうには使わないのでしょうか。

◎事務局

普通は小規模、中規模です。

□委員

「たけだ」さんは中規模なんですよ。「たけだ」さんの例を言うと、あそこは小売店ですけども、小規模じゃないんですよ、中規模なんですよ。

■会長

例えば中小事業所とかいう言い方ではダメですか。

□委員

中小企業という形ではないんです。そこは商工物産課が要項を持っているので。

■会長

定義があるわけですね。〇〇委員が言われたいのは、具体的にはそこまで含めるのであれば中規模まで入るんじゃないかというようなことと、ここは基本的には小規模を中心とした活性化ということですけども、そこに連携する流通という分野も入っているし、確かに「こう」というのもどうかなどというところもあったりしたんですけども、中身もできたらどういう事業者かなというのが確かにわかるという点があるかなと思いました。事業者というのは幅広い言い方で、大学もそうした事業所の1つですけども。

◎事務局

ここにつきましては、担当課とお話をさせていただいて、変える方向での協議をさせていただきます。

◎事務局

もう1つのKPI、新規平戸産品取扱店舗数の3件ですけれども、商工物産課の方に確認をしたところですが、平戸漁港六次朗、東京上野の六次朗と天神のレガネットというところと、恵比寿ガーデンプレイスでの取り扱いということで3件ということでございます。

□委員

ということは、これは市内というよりも都市圏という意味ですね。事業者が売るというのではなくて、行政が努力して販売店を見つけるというようなスタイルなんですか。

◎事務局

形的にはブランド化をしている担当課があるんですけれども、そちらの方でもっております協議会ですね、そちらの方での営業活動による新規開拓、市外ということでございます。

□委員

となると、文言の追加で、例えば大都市圏とか、このままでいくと平戸の市内に店を出すようなイメージも取りやすいと思いますので、やっぱり都市圏とかですね、そういうところへの新規販売店を設けるとか、都市圏というのを入れないと駄目だと思います。

■会長

大都市圏というのはどこかで出てきていましたね。

□委員

それともう一点、輸出の方で東南アジアとかあるんですけれども、今、さっきの観光の方でも鄭成功を川内中野地区じゃなくて平戸市内全島という考え方で進んでいますので、貿易とか輸出の方も、例えば台湾という文字は入れられないんでしょうか。

■副会長

地域を言っていますので、多分そのエリアの中に含まれていると思うんですよね。東アジアとか東南アジアとかいう地域。

□委員

ただ県はあまり台湾に触れていないんですよね。

■副会長

なぜ台湾だけなのかとなってきますから、他の国名となると、中国とかインドネシアとかタイ

とか、ですから地域のエリアということで東アジアとか東南アジアとかいうエリアで。

□委員

現実的に、県は台湾はあまり積極的じゃないんですよ。ただ平戸が特化するとなれば、東南アジアという広いエリアはわかるんですけども、せっかく鄭成功がありますので、現実私たちも数回物産展をやりました。ですから、台湾という文字を入れられないのかなというのが、平戸はいいんじゃないかというふうに私は考えるんですけども。

■副会長

であるならば、やっぱり台湾を入れるなら中国も入れないと、南安市と姉妹都市ですから、友好都市を結んでいますので。東アジアということでひとまとめにしてあるわけですよ。そうしたら台湾も含まれるので、入れるとそこだけ特殊なような形で浮くかなというところがすごく。

■会長

行政府は台湾を国として認めていないという形にはなっていますから、学校の事業でも台湾を地域という形で扱っていますので。

□委員

表現は実際は平戸は台湾と協定を結んでいますので、力を入れていくというのは当たり前の話だと思います。

■会長

そのほか、基本目標の産業の振興のところをございませんでしょうか。ここはページ数も結構多いところですけども、修正も幾つかありますが、いかがですか。

ではひとまず次の基本目標3、子育て支援のところ、24 ページから 29 ページまででご意見ご質問をお願いします。

□委員

ほぼ固まった状態で、今頃言うのもおかしいんですが、子育て支援という大きな命題を見た場合に、現在、不登校とか引きこもりでかなり本人とかその家族、苦悩していらっしゃる方が身近にいらっしゃいますし、平戸市内でも結構な数いらっしゃるんじゃないかなと思います。それで、大きく捉えると若い人を育てるということにつながっていくと思うので、そういう方々への取り組みも事業としてなかったのかなと、今頃になってですけども思いました。

■会長

25 ページのAの子ども・子育て支援の充実の丸印の一番下あたりぐらいがちょっとそこに関係があるのかなと思うところですけども、事業としてだいが・・・ところですね、これはちょっと、かなり協議が進んでいるところかと思えますけれども。

委員

実際に取り組みはあっているんですか。具体的な事業として。

◎事務局

通常の事業としまして、学校教育課の方は当然不登校の関係は数は把握されていますし、対応もそれなりに行っているところであります。

委員

引きこもりの数とかはわかってないですよ。

◎事務局

事務局の方では把握はしておりません。

委員

どの課でも引きこもりについては数は取られていないですよ。

◎事務局

学校教育課、教育委員会だけは押さえていると思います。

委員

結構田舎だけど、引きこもりもあるんですよ。

◎事務局

引きこもりというか、学校教育に関わらず青年の引きこもりとかもでしょう。今のところそういった対策はどこの課も行政の中で対応している課はないと思います。

委員

だいたい引きこもる方は10代から20代前半の若い方なので、そういう方の力をどうにかして外に向けてあげたらなと思ったものですから。

◎事務局

そういう統計資料が今のところないものですから、ちょっとそれは課題として今後検討させていただきますでしょうか。具体的に予算を編成する中で、こういった対策をとるところも今のところ特にないんですよ。今言いましたように、そういった数の把握とかもやってませんので、今後、確かに言われるように、もしかしたら今後そういった部分はもっと増えてくるかもしれませんので、それはPDCAサイクルで検証する中でこういうのが問題としてないか、一応課題として捉えさせていただきます。

□委員

お願いします。

■会長

ニートの問題とかはすごく話題になっていますけれども、場合によってはひょっとしたら就業力とか、そうしたところともつながってくる部分もあるのかなと思います。

その他、基本目標3の子育て、教育についてございませんでしょうか。

□委員

ウの教育環境の整備の28ページなんですけれども、平戸市はいじめゼロの条例を作っていると思うんですけれども、どうせなら子育てや教育の悩み、いじめを起こさない環境づくりのためとか、そういうのをどこかに入れ込んでおけば。いじめをどこかに入れたほうがいいのかなど。

■会長

そこはどうでしょうか。ここの事業でそうしたところと関連するようなものとか。

◎事務局

いじめにも当然大きな括りでいきます中に、総合戦略としての内容的に合うのか合わないのかということも少し問題になってくると思いますけれども、確かに別の事業では戦略を外れたところでは当然ございますので、できればそこでカバーされているということでのご認識をいただければと思います。

■会長

その他子育て支援等ではありませんか。

では次の基本目標4、30ページから残りの部分を含めて、定住移住の促進と、最後の計画の推進というところもございますが、そこまでご意見がございましたら。

□委員

35ページのスポーツ推進事業のところなんですけれども、平戸市には野球場とかサッカー場とか、サッカー場も芝のサッカー場でJ2のキャンプだったりとか、そういったぐらいの素晴らしい芝だということを見て自分も感じたんですね、そういうところを呼ぶ事業とか、そうしたら1週間でも宿泊も増えるかもしれませんので、そういったところも検討していただければなという感じもしました。

■会長

ここの事業はうちが取り組みというか、外から呼んだり、勧奨するというような。

□委員

子ども教育というか、子どもさんがスポーツに対しての関心とか、そういったところにもつながるかなと思います。

◎事務局

一応、V・ファーレン長崎とはフレンドリータウン協定を3月に結ぶように予定をしているんですよ。V・ファーレンとはうちが県内では一番初めになると思いますので、そういう意味ではV・ファーレンの支援をしていきたいと思ひますし、その中を通じて子どもに対するサッカーの指導教室をやるとか、そういった事業が展開できると思ひますので、その部分についてはライフカントリーは、確かにおっしゃられるように芝については評価を受けていただいておりますので、そこらへんは。

■会長

その他ございましたらお願いします。

□委員

いまのスポーツに関してですけれども、例えば国内の大学とか、韓国の大学の野球チームとかサッカーチームとかの合宿とかを誘致できないかなと。

◎事務局

これまでそんな事例もあったんですけども、海外の時には、例えばどんなネットが幾つありますとか、いろんな備品の一個一個まで調べが来ます。それと行政でお金どれぐらい出してくれるのとか、いろんなそういった要求をクリアしないと来てくれないというところが多いんですね。私どもが一番きついのが、ライフカントリーは芝生で管理も素晴らしいんですけども、サブグラウンドがないとか、シャワー室の個数が足りないとか、いろんな合宿とか長期になるとクリアできない部分が、これはオリンピック、パラリンピックもそうなんですけれども、施設として小さいんですね。本当に検討はかなりして、誘致も頑張っているんですけども、じゃあこれあると聞かれた時に、ありません、ありませんとなって今苦労しているところが正直なところです。努力はしているところでございます。

□委員

そういった作られる、5年以内に作られる計画とかですね、今言われたように台湾のチームであったりとか、海外のチームが野球でもサッカーチームでも、5年スパンとかを見て、いろいろ大変でしょうけれどもそういったことも1つの検討を。

■会長

今は全く考えていなかったと思ひますけれども、ちょっとそういう提案があったということで。

◎事務局

P D C Aサイクルの中でも今のご意見を入れ込むということでのご理解をいただきたいと思います。

■会長

今のような施設の情報というのを提供するという事は結構大事な事だと思いますので、有名チームでなくても、そのぐらいでも安かったら利用してくれるようなところがあったらどんどん誘致できるように・・・と思います。

その他ございませんでしょうか。

□委員

34 ページのウの魅力あるまちづくりですけれども、上から5番目に、健康づくりや介護予防とか高齢者の方とか書いてあるんですけれども、これに子どものことも含めて書いていただけたらなと思いました。子どもころの食べるものとか食育とかそういうのも大事だと思うけれども、そういうのに絡めて書いていただければなと。

■会長

ここはどうでしょうか。

◎事務局

子ども関係は、この項目では確かにほとんど触れられていないんですけれども、教育環境のところとかになると子ども関係が言葉が出てくるんですけれども、基本目標3のところ子育て関係のところ、ここに置くか、そういった形での考え方は持っておりました。確かにここでは、このセンテンスには子どもという言葉は出てこないんですけれども、この場合は高齢者に限定した書き方をしているところです。

■会長

事業の中で言うとスポーツ推進とか、そうしたものはあらゆる年齢層に関係があるかもしれないんですけれども、子どものことに関しては別な事業目標ということで。

□委員

ただいまのご意見に関連してなんですけれども、私も実はそう思って拝見していたんですけれども、食育教育というのが盛んに叫ばれているじゃないですか。従って、今のご意見のとおり、子どもの時に食に対する健康づくりのための食とは、そういった観点からもぜひそういうところをどこかで入れて欲しい。入れるべきだと、このように私も感じました。

◎事務局

文言として、食育というフレーズを基本目標3の子育て支援の中でのどこかで挿入するという

ことでもよろしゅうございますか。

□委員

そうですね。子育てのところにするか、それはいいんじゃないですか。

■会長

子育ての方に食育関係とか文言を入れるといった方向でよろしいですか。

その他、最後の 38 ページまでのところで何かございませんでしょうか。

□委員

31 ページなんですけれども、平戸式ワーキングレジデンス事業のことなんですけれども、農業体験とか漁業体験とかいう表現がないんですよ。これは農業体験、一次産業へのというところを農業や漁業体験の就労支援とか、農業体験ということをわかりやすく書いた方がいいのかなと。どこにも農業体験がないから。

■会長

ここは具体的にしているのは農業と漁業ということですか。

◎事務局

そうですね、現実的にはおっしゃる通りですね、農業と漁業でございますので、確かに林業はもうありませんので。確かに農業、漁業と書いても全く問題はございません。

□委員

おそらく農業体験を総合戦略に入れているところが結構あると思うので、わかりやすく入れたほうがいいかなと思います。

◎事務局

そうですね、これは言葉を訂正いたしまして、一次産業を農業、漁業ということで表記したいと思います。

■会長

そのほうが正直わかりやすいですね。他にございませんでしょうか。

□委員

34 ページなんですけれども最後のところで、電気自動車の導入に向けた取り組みを推進しますというのを消した理由というのはあるんですか。

◎事務局

これは、CO₂ 排出ゼロ宣言の絡みで、電気自動車の導入を実際に検討しておりました。ところが、現実的にいつどここの場所に何台入れるかというところまで踏み込むことができなかつたものですから、それを踏まえて、それを消す代わりに別の取り組み、例えば市民向けの事業を先に展開していくとか、他にやれることを優先したという形にはなります。ただ、電気自動車を辞めたというわけではございません。これは例えばコストですね、確か1台400万くらいかかっていたと思うんですが、そういうことも含めて検討は続けています。

□委員

35 ページの事業は入っていますよね。35 ページの電気自動車導入促進事業とあるんですけども。

◎事務局

検討はしていくんですけども、項目として大きく捉えるところまでいかないのかなということで削除しています。一項目だけなんです。他は総合的なものを考えるべきじゃないかということで、電気自動車は検討するけれども、事業としてはありますけれども、言葉としては大きい括りでの付属表現に変えたということでございます。

■会長

この一行を見ると辞めたわけではなくて進めていくと、ただ全体の大枠を説明する中では、ちょっとCO₂ の削減というところの説明ではもっと幅広いこともあるだろうということで。

□委員

実際そういう導入促進事業ということで、助成とかは組んだりするんですか。

◎事務局

そこまでの検討は今後ということになっているんですけども、まずは例えば公用車の導入とかですね、そういうところが現実的な話ではないかと思います。

□委員

これは入れる意味はあるんですかね、事業で。

◎事務局

今ですね、27 年度にCO₂ 排出ゼロ宣言をした関係の基本計画を作っているんですね、まだ3月までに出来上がるものですから、明確にその方向性とかがまだ出来上がっていないものですから、一応今言ったように電気自動車の促進についてはしなければならぬという思いはあるんですが、そこらへんが明確に、例えばスケジュールとかがないものですから、一応それを受けて方向を出してということで考えているものですから、一応28年度にも電気自動車関係の予算を盛り込んでいないんですね、ちょっと先送りになっている関係で文言から外されている。ただ、CO₂

排出ゼロ宣言はやっていますので、電気自動車の促進には取り組まなければいけないのかなという
ことで、一応事業は残しているという形です。

■会長

他にございませんでしょうか。言い忘れたことがあったら、全体を通して、1 ページにまた戻
っても結構です。

□委員

31 ページの看護師等資格取得奨励金制度ということで、看護師等も人手不足分野のところなの
で、なかなか手がいないということはわかるんですけども、例えば平戸の方では介護の事
業所の方も結構あります。そういった中で例えば介護福祉士とか、介護関係のそういった資格を
取るためのいろんな奨励金制度とか、そういったのがあるのかどうかちょっとお伺いしたい。も
しなれば、ぜひ入れていただければ、そういった将来的には介護とかも必要になってきますの
で、そういったところでも人材育成、そうすればそういった介護施設がオープンできれば、それ
に対しての人材育成ということにもなってくるということでしょうか。

◎事務局

介護関係の助成はないんですが、介護人材の育成事業がありまして、事業所に雇用していただ
いて、雇用していただく間に資格取得していただくという事業を今やっているんですよ。それで
対応させていただきたいと思っておりますし、看護師については、奨学金は具体的にまだいっ
たないんですが、企業会計では病院等が奨学金制度を作っていますので、それを、そこは企業会計
自体が雇用するときの奨学金なんですが、そういったのを民間の病院等にもするような制度をち
よっと検討していきたい。

■会長

看護師等の資格を取る場合は、地元では専門学校はないんですよね。

◎事務局

ないですね、佐世保しかない。

■会長

よろしいですか。

◎事務局

すみません、さっき言った介護職取得人材育成確保事業は10 ページに。

□委員

13 ページの新たなビジネスの創造の丸の4つ目の再生可能エネルギーの導入を促進し、新たな

産業の創出を図りますというところで、これは民間が行う風力発電も入るんでしょうか。今風力発電は結構技術が上がって、太陽光から風力にチェンジすると聞いているんですが、風力が入りますか。それと14ページの中で、一番最後の再生可能エネルギー推進事業で、発電事業者等との連携や支援、この支援というのが風力発電を民間事業者がする場合にどのような支援があるのかということを知りたいんですけども。

◎事務局

個人の風力発電という話ですよ。確かに個人での風力絡みのことは、すみませんが全く記憶にございません。

□委員

出資金というか、資金を一部市から出すということじゃないですか。今、大島にミツウロコさんが入っていますけれども、多分資金の中で二本立てになっていて、平戸市黒田市長さんの名前がありますけれども、平戸市とミツウロコさんが何対何かの割合で資金を出して設立されておりますけれども、そういう支援じゃないんですか。

◎事務局

多分大島の時は4分の1出資しているんですね、他、生月と田平にあるんですが、民間の風力事業者が、そのときは2分の1出資しているんですね。今、具体的に南部地区の方に計画がされているんですが、今のところ出資というのはないんですね、ただ補助制度の関係があって、補助を受ける場合に公共団体が出資している場合の補助率と、していない場合の補助率が違ったもので、そういった出資をせずに行っている場合が今までであったんですね、今のところ南部地区の分については出資をということが今言われていませんので、今のところ計画上は上がっていないんですよ。

ここでいう再生可能エネルギーは、今言ったように風力発電は結構規模が大きくなるものから、個人でちょっと手を出せるようなものではありませんので、今のところ明確にこちらで支援するということは考えておりませんし、事業者の方からも今のところ要望はあっていないんですね、再生可能エネルギーにつきましては、独自で、単独で太陽光発電については単独補助がありますので、そういった部分で支援をしていきたいというふうに思います。

□委員

ということは、これは行政が設置する、出資する件数ということになるんですか。

◎事務局

出資ばかりが支援ではなくて、例えばそういったうちの方で立地するときのいろいろな手続き等に対する支援というのもできますので、必ずしも助成金を支出するばかりが支援ではないのかなと思いますので、今、CO2排出ゼロも南部地区の風力発電ができるのがメインで、二酸化炭素の排出量はかなりの部分を占めておりますので、そういった部分については出来るだけの支

援はするということで取り組んでいきたいと思います。

□委員

今、大島とか生月とか田平にある風力発電は大型なんです。大型施設ですから、普通の民間事業者や平戸の人たちは到底無理です。今の風力発電と私が言っているのは、中規模、小規模とあるんです。電信柱の高さぐらいの風力発電も今あるんです。屋根の上に取り付けるぐらいの風力発電もあるんですよ。ですから、それは個人でもできるし、企業でもできるというふうに、私もパンフレットを見ていますので、そうするとCO2 宣言をした、大型じゃなくて、中型、小規模の民間でもできる、家庭でもできるという技術が今進んでいますので、そういうふうな方々への支援はないのかということです。

◎事務局

今のところ、そういった、今言った大規模でないやつ、中規模や小規模は今のところ担当課の計画に上がっていないんですね。CO2 排出ゼロ策定委員会には、そこらへん先ほど言ったように、今基本計画を策定していますので、その中で上がってくるようであれば、そこも検討させていただきたいと思います。

■会長

これは継続の事業なんですよ、再生可能エネルギーは。だから今言ったように幅を広げれば目標が達成されるんじゃないかということもあったりすると思います。

□委員

21 ページの一番上の産学官連携による観光人材育成事業ということですがけれども、世界遺産を見越して、田平天主堂をいろんな連携をして、ボランティアガイドとか、いろんな感じで高校生の段階から地域、ふるさと愛というか、地域を見ていただく、見るということで、そういう観光人材というところまではいきませんが、できれば地元の高校の高校というのを入れているだけでも、大学、民間等の連携ということで、とにかく地元の農業を含めて、やっぱり地域をキーワードとした教育を進めていこうということをやっております、市ともかなり連携をしていく中で、一部来年度予算確保いただいているとも聞いておりますけれども、その中でちょっと括弧書きでもいいので地元の高校、大学、民間等と入れていただければ、やっぱり高校の段階でこういった新規の事業の中でできることがあるんじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

◎事務局

これは単純に挿入をしたいと思います。

■会長

高校と大学が一緒になってやっている事業なんか今は多いので、特に大学では高校生に協力してもらおうということは大事なかなと思います。高校生の場合は、おそらく実際にここに住んでい

て機動力もあると思いますので、高・大連携でやることがありましたら協力したいと思います。
他にございませんでしょうか。

□委員

7ページ、文字のことなんですけれども、この文字で決まり、例えばひとをそだてるプロジェクトを見ると、平仮名で全部書いてあったりするんですけども、ぱっと見たときに、私はちょっと見にくいかなと思ったんですが、なぜ平仮名で全部書かれたのかなと思ひまして、まちをつくるとか、しごとをのばすとか、ひとをそだてる。

■会長

一つだけ、私が質問に答えられるとするならば、私の専門から、まちというのは平仮名でまちづくりと書くことが多いんですよ、町、街という字もあつたりするんですけども、その辺の定義がもうちょっと厳密になってしまうので、まちというのはよく平仮名を使つたりすることが多いです。ひと、しごとというのは専門外なんですけれども、事務局の方で答えられれば、まちが平仮名だからあとは平仮名でというのものもあるかと思いますが。

□委員

なんでそう思ったかという、ここに1ページのところにまち・ひと・しごとというのをこれは平仮名で書いてあるので、そのまま書いてあるのかなと思ったんですけども、読み語りとか私はしているんですが、みんな平仮名とかだったら読みにくいんですよ、ぱっと見たときに、それで例えばそのくせに重点プロジェクトやらんば燦燦ですか、難しい漢字も使っていて、それならちょっとバランスが悪いなと思ひながら、誰が見る、誰に対してこれを見せたいのかということ、見る人が小さい子も見る、小学生が見るとかだったらルビとか振ってもらえたらいいのかなと思つたりしました。自分がそう思っただけです。

◎事務局

これにつきましては、おっしゃるとおり1ページの国がまち・ひと・しごとを平仮名でしている関係もありまして、それに合わせたというのは当然ございます。そして例えば7ページで言えば、アンダーラインを引いてあるところ、まちをつくるプロジェクトのつくるを平仮名にしているのも、まち・ひと・しごとの平仮名化に合わせたものになっているところがございます。

おっしゃるように、やらんば燦燦プロジェクトの燦燦ですね、読めない大人も多分いると思うんですけども、これが総合計画の中で漢字を使っているものですから変えられないんですね、ただ、ルビを振るのが可能かといえは可能でございますけれども。

■会長

これはぜひ振ったほうがいいんじゃないですか。

□委員

これは、立派なものが皆さん方のいろんなご意見に基づいてできていると思って拝見しているんですが、これが成案となって、議会などで承認ということになるんですか、どのような手続きになるんですか。

◎事務局

これが議会の方でも議案ではないんです。意見を聞くというような形で、同じ形でございますので、それでとりあえず説明を議会に対してしまして、いいだろうということになったら、今度は国の方に提出することになります。いろんな今後の国の事業がこれに載っていないと補助金が使えませんよとか、そういったことにすべてつながってまいりますので、なるべくなんでも取れるようなというとおかしいですけれども、包括的な形で書き方になっているところはそういうこともございます。

□委員

実は私は佐世保市の委員の一人になっているんですが、従って佐世保市からもそういうことをお聞きしております。そこで、最後にPDCAがあるじゃないですか、従ってこのような案ができて、今後PDCAのサイクルに沿って一つ一つチェックを働かせてアクションをしてくんでしょけれども、それは今後どのような形でやられるんですか。

◎事務局

今日の最後の方でお話しようと思っていたんですけれども、この策定委員会につきましては本日で終了するわけですけれども、今後4年間の間でPDCAをする関係で策定委員会の策定という言葉を進捗という言葉に置き換えて、皆様ご出席されて今まで一緒に検討していただいてきておりますが、引き続き、皆様方と一緒にこの計画をPDCAサイクルに合わせてチェックをしていって、ここは修正すべきじゃないかとか、目標が高すぎるんじゃないかとか、低すぎるんじゃないかとか、そういった議論を今後も進めていかせていただきたいと思います。

とりあえず、年2回ほど計画をしておりまして、決算の後と予算を作るときに、こうして皆様にお集まりいただいて、今の結果を踏まえて修正を、見直しを進めていきたいと考えております。

■会長

作るだけではなくて、作った後が大事なので、もちろんそれぞれのKPI指数とかがあっているので、そのへんのチェックなんかも今後重要になってくると思います。他はございませんでしょうか。

では、幾つか修正の要望あって、すぐに応じられるところも幾つかあったと思います。まだこれから部署に持ち帰って検討するような、大きなものもあったかもしれませんが、一応これで審議の方は終わらせていただきたいと思います。

では次、2つ目の議事でその他というところですが。

◎事務局

1つ、パブリックコメントを冒頭でも申しましたが、お配りしております両面のA4横の方です、これをご覧下さい。4件ご意見がございました。そのうちの最初の1、2でございますが、これが田平地区の方で総合型スポーツクラブ関係が設立されているんですけれども、それを含めたクラブ活動をする小学生、田平地区では小学校の生徒数が少ないものですから、3校が1チームを作っております。平戸でも生月でも同じだと思うんですけれども、それで、ボランティアの方々が自分の車を使って子どもさんを集合場所の学校に北小に送迎をされているんですね、そういったものの支援を含めた大きなものとしてやっていただけないかというご意見が1と2でございます。

それに対する市の答えとしては右側の欄でございます。これは担当課の方での回答をいただいているところなんです、いろんな、たくさんの補助がある中で、特に田平のたびスポさんは活用をされて、講演会をしてみたり、地域のイベント関係をしたりとか、かなりの広範囲に渡って活動をされております。そういった支援、総合的な支援というのは、今後とも市としては行っていくということでございますが、個別の対応については今後検討をさせていただきたいということでの回答を出しているところでございます。結局、田平だけの問題ではなくてということがございます。これは田平だけすれば当然生月でもしてください、大島でもしてください、いろいろ大きな問題になってきますので、きちんとしたところで検討を重ねていって事業に反映していくということでございます。

裏面が2つございます。3の方では観光のことを言っておりまして、簡単に言ったら、宿泊の方が大事なんじゃないだろうか、あと、今のようなプランで大丈夫なのですかということでございます。あとは一番最後のところは行政とコンサルタントだけで作っているということではないんですけれども、そういったご懸念があるようですが、回答としては右側にありますとおり、例えば宿泊客もKPIに設定しております。数値目標では、日帰りを含めた観光客の入り込み数を書いているんですけれども、そこらへんを踏まえて、こちらもそれなりに考えて頑張っていきますということを書いております。

4番目でございますが、これは特定の子どもに対する支援でございます。児童クラブというのがございますけれども、未就学児が、幼稚園とか入る前の子どもがいないと減免の対象にならないという、より具体的な指摘でございますが、その回答として、右側の方に担当からの回答が書かれております。確かに今後のこういったことは把握はしておりますので、検討する際の参考とさせていただくということでの回答となっております。

以上がパブリックコメントの内容でございます。

■会長

この点に関してご意見とかありませんか。

□委員

NPOが総合戦略作って来るとかこの前あったじゃないですか。あれはどうなんですか。

◎事務局

来ませんでした。

■会長

では次の、次がその他ですね。

◎事務局

その他としまして、先ほど申しました、今後の皆様方の策定委員から推進委員にする話をその他でしようと思っておりましたが、大体先ほどご説明させていただきましたので、できる限り今後とも同じメンバーでやらせていただきたい。異動関係が当然ありますが、その場合には後任の方にそのまま引き継いでいただきたいということでございます。よろしくお願いたします。

■会長

よろしいでしょうか。

一応これで検討の議事は終わりました。あとは事務局にお返しします。

◎事務局

それでは最後になりますが、総合戦略に関しては今後の予定を改めて説明いたします。

3月7日、月曜日からですけれども、3月の議会が開会の予定となっておりますが、初日に、7日でございますが、議会に対しまして総合戦略を配布いたしまして説明する予定としております。そのあとに県及び国への策定の報告を行いまして、最終的に平戸市ホームページでの一般的な公表の運びとなっております。

あと、本日の委員会の会議録でございますが、後日郵送をさせていただきます。内容の修正がある場合には連絡を事務局までお願いいたします。

以上でございますが、最後に、閉会に当たりまして寺田副市長よりご挨拶をお願いいたします。

◎副市長

それでは、閉会に当たりまして、本来であれば市長がご挨拶申し上げるべきところですが、あいにく出張ですので私がご挨拶申し上げます。

石川委員長はじめ委員の皆様には、昨年5月以降、本日まで計6回の策定委員会にご出席いただき、いろんな角度から検討していただきまして、本日皆様方と協議させていただきましたものに出来上がりました。これは今後の平戸市の振興を図る上で非常に大事な事業が盛り込まれております。当然、行政だけでできることではありません。市民お一人お一人、あるいは各事業者が一体となってここに盛り込まれております事業を推進することによってここに数値目標等を掲げておりますが、それが達成できるものと思っております。

先ほどのお話にもありましたように、ホームページで公表するということですが、委員の皆様方におかれましては各事業者、あるいは近所の人、あるいは親戚の人含めて、この内容等についてお話をいただきまして、一人ひとりが今後の平戸市を支えていくという気概をもってやっていただければと思っております。

行政としまして、新年度予算にこれに係る分を盛り込んでおります。一生懸命になって取り組んでいきたいと思っております。また委員の皆様には引き続き、来年度以降につきましては、推進委員会ということで名称を変えますが、引き続き委員の就任をお願いいたしまして、更なる叱咤激励をいただきながら、より良いものに作り上げ、なおかつ効果が出るような形でしていきたいと思っております。またその節はよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日はこれで閉会としますが、これまでいろいろとご協力いただきまして、どうもありがとうございました。

◎事務局

以上をもちまして、第6回平戸市総合戦略策定委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

(閉会 15:00)